

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進	施策	③ 本県の実情に応じた温暖化防止対策の推進
			施策の小項目名	○適切な森林管理及び県民主導による緑化
主な取組	造林事業		実施計画記載頁	35
対応する主な課題	④本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それに合った適応策を検討する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
木材生産及び水土保全その他の森林の持つ多面的機能の高度発揮のため、民有林において人工造林、樹下植栽及び保育等の森林整備を実施する。		44ha 造林等面積				
実施主体	県、市町村					
担当部課【連絡先】	農林水産部森林管理課		【098-866-2295】			
		無立木地への造林や複層林整備の実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
造林奨励費									
内閣府計上	補助	290,826 (139,321)	256,517 (77,496)	328,857 (33,821)	261,237 (5,080)	235,959	229,009	内閣府計上	○H30年度: 人工造林及び樹下植栽を24.33ha実施した。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施した。 ○R元(H31)年度: 人工造林及び樹下植栽を25ha実施する。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施する。
県営林造成費(補助事業)									
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	委託	30,948	54,183	42,230	26,754	62,710	60,863	内閣府計上	○H30年度: 人工造林及び樹下植栽を10.36ha実施した。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施した。 ○R元(H31)年度: 人工造林及び樹下植栽を7ha実施する。また既存の造林地においては、下刈り、除伐等の保育を実施する。

様式1(主な取組)

予算事業名 森林整備交付金事業費							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 人工造林0.5ha実施した。 ○R元(H31)年度: 事業実施なし。
一括交付 金(ハード)	補助	9,369	8,572	10,408	4,121	1,247	0		
予算事業名 県営林造成費(単独事業)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 国庫補助基準に満たない小面積の保育や補植 等を実施した。 ○R元(H31)年度: 国庫補助基準に満たない小面積の保育 や補植等を実施する。
県単等	委託	0	1,098	756	100	1,501	1,998	県単等	

様式1(主な取組)

活動指標名	造林等面積(単年度実績)(ha)				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要		
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B					
	36	26	28	29	35	44	80.0%	301,417	概ね順調	無立木地への造林や複層林整備を35.19ha実施した。		
活動指標名	—				H30年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	—	—	—					
活動指標名	—				H30年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	—	—	—					
活動指標名	—				H30年度					実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	—	—	—					
(2)これまでの改善案の反映状況												
平成30年度の取組改善案						反映状況						
<p>①沖縄に適した資源循環型施業について、早生樹種(ハマセンダン及びウラジロエノキ)の生育状況等についての調査を継続しデータを収集していくとともに、造林事業での植栽を推進していくために、県営林への植栽を推進する。</p> <p>②市町村等の事業主体に、造林補助事業の実施についてより理解してもらうために、造林事業実施基準(案)を作成する。</p> <p>③造林補助事業の事業計画の作成において、実効性の高い計画となるよう事業主体への指導を強化する。</p>						<p>①早生樹種の生育状況について植栽4年目の生長量調査を実施した。また、県営林において早生樹種の植栽適地を掘り起こし、植栽を計画した。(台風災害による苗木の枯損により、事業実施は31年度に繰越し)</p> <p>②県担当者、普及員及び研究センターとで会議等を行い、造林事業実施基準(案)を作成した。</p> <p>③造林補助事業の事業計画の作成において事業主体への指導を強化したことにより、実効性の高い計画に基づき事業が実施され、補助事業の執行率が上がった。</p>						



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

- ・これまでの森林整備により森林資源が充実してきており、今後も資源の利用に向けて除伐や間伐等の適切な森林施業を実施していく必要がある。
- ・主な事業主体は市町村であることから、事業を計画的に実施していくためには、市町村との連絡調整を緊密に行う必要がある。

○外部環境の変化

- ・本県林業の中核的な地域であるやんばる3村(国頭村、大宜味村及び東村)は、現在、世界自然遺産登録に向けた取組が進められていることから、その貴重な自然環境の保全について、より一層の配慮が求められており、環境に配慮した森林施業を推進する必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・森林資源の利活用と環境保全の両立を図るため、沖縄に適した資源循環型施業が実現できるよう、早生樹種の造林指針作成に資するための継続的な調査及び新規に植栽導入した市町村へのフォローアップが必要である。
- ・計画的に収穫伐採が実施できない社会情勢を加味して、主な事業主体である市町村に収穫伐採に伴う造林以外での事業の掘り起こしを進めてもらう必要がある。



4 取組の改善案(Action)

- ・早生樹種の生育状況の継続調査を実施すると共に、市町村の新規植栽地においても、生長量調査を実施し生育状況確認を行う。
- ・市町村等の事業主体に造林事業に対する認知が広がるよう造林事業実施基準を策定する。
- ・市町村等が森林作業道作設やそれに伴う新規事業を実施できるように、沖縄県森林作業道作設指針を制定し、森林作業道を補助に導入できる体制を整える。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(3)-ア	地球温暖化防止対策の推進	施策	③ 本県の実情に応じた温暖化防止対策の推進	
			施策の小項目名	○公園、街路樹等の都市緑化	
主な取組	県民の森管理事業			実施計画記載頁	36
対応する主な課題	④本県は亜熱帯性気候に属し、また地理的・地形的条件が他都道府県と異なるため、地球温暖化による影響を独自に予測・分析し、それに合った適応策を検討する必要がある。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
森林・林業の役割について自然とのふれあいを通して普及啓発を図るとともに、森林レクリエーションの場を通して次代を担う青少年の健全な育成と県民の健康増進を図るため、県民の森公園内の緑化等の施設整備及び維持管理を行う。						
実施主体		県				
担当部課【連絡先】	農林水産部森林管理課		【098-866-2295】			
		県民の森の施設整備、維持管理、利用促進				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	県民の森管理事業費						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
県単等	直接実施	11,579	1,121	4,410	3,500	13,153	22,376	県単等	○H30年度: 森林・林業の役割について自然とのふれあいを通して普及啓発を図るとともに、県民の森公園の修繕等の維持管理を行った。 ○R元(H31)年度: 森林・林業の役割について自然とのふれあいを通して普及啓発を図るとともに、県民の森公園内の緑化等の施設整備及び維持管理を行う。
予算事業名	—						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: — ○R元(H31)年度: —

様式1(主な取組)

活動指標名	県民の森の維持管理				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	修繕の実施	—	100.0%	13,153	順調	活動概要 県民の森公園内で修繕が必要な箇所について 工事を実施し、利用者の安全確保を目指した。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
①老朽化した施設の改修等について、長寿命化計画に基づき一部実施する。 ②外国人観光客のニーズに対応するため、多言語案内板等を設置する。						①長寿命化計画の一部策定業務を実施した。 ②料金案内に英語表記を追加した。				



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

・利用者の安全を確保するため、老朽化した施設の改修等について検討する必要がある。

○外部環境の変化

・やんばる地域の世界自然遺産登録に向けた取り組みが進行しており、林業体験や森林環境教育分野での体験プログラムの実施が求められている。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・老朽化した施設の改修等を行う必要がある。
・自然との触れあいを通して森林・林業の役割を正しく理解させる体験プログラムを実施する必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・老朽化した施設の改修等について、長寿命化計画に基づき一部実施する。
・自然との触れあいを通して森林・林業の役割を正しく理解させる体験プログラムを実施する。